

パネルディスカッション 太平洋クロマグロの未来

コンビナー



宮原正典

水産総合研究センター理事長。2014年4月より現職。水産庁在籍時からマグロ類の資源管理・国際交渉に深く関わり、現在は大西洋まぐろ類保存国際委員会（ICCAT）パネル2議長、中西部太平洋まぐろ類委員会（WCPFC）北小委員会議長を務めています。

パネリスト紹介



石原幸雄

鳥取県水産試験場漁場開発室長

学生時代には、旧遠洋水産研究所のご協力により日本近海におけるクロマグロの一回産卵量推定などの研究を行いました。

現在、鳥取県水産試験場でクロマグロ調査を担当して6年目になります。

境漁港で水揚げ魚の調査を行う6～7月が忙しい時期となります。



田添 伸

長崎県水産部政策監の田添伸です。現在の仕事は水産部全体の政策調整を担当しています。

本県においてクロマグロは、極めて重要な魚種であり、曳縄等による漁業や養殖業が盛んで、対馬や五島など離島が主体です。クロマグロを含め重要

資源を対象とした「資源管理のあり方検討会」では、委員の一員でした。



田中栄次

東京海洋大学教授。沿岸の資源管理型漁業の研究から始まり、国際捕鯨委員会・大西洋まぐろ類保存国際委員会・みなみまぐろ保存委員会等の国際会議に長年出席。沿岸のアワビ類から南極のクロミンククジラまで幅広く水産資源の資源評価・資源管理の研究を行っています。



本間靖敏

2013年から北海道漁業協同組合連合会代表理事常務（現職）

北海道漁連は、全道漁協の出資による指導・経済事業を担う連合会です。

私は指導事業（漁政・環境・指導教育）を担当しており、漁業者・漁業協同組合の経営安定と漁業発展のための仕事

をしております。

特に資源管理については、漁政活動としてイカ、スケトウダラ等のTAC魚種をはじめ、ホッケ、クロマグロ等低位減少資源の回復に漁業者とともに取り組んでおります。



山内愛子

WWF ジャパン 水産プロジェクトリーダー

2008年WWF ジャパンに海洋プログラム水産オフィサーとして入局。2011年より現職。

持続可能な漁業・水産物の推進をテーマに国内外ステークホルダーと協働のもと活動を展開。主に大西洋、太平洋でのマグロ類保全活動や企業の持続可能な水産物調達促進を担当しています。



島田裕之

国際水産資源研究所くろまぐろ資源部長

2014年から、クロマグロやミナミマグロを担当し、関連する地域漁業管理機関の科学委員会において陣頭指揮にあたっています。特に、太平洋クロマグロでは、仔稚魚調査の拡充、遺伝的手法の導入等により、加入水準の早期

把握や資源評価の精度向上、資源管理手法の高度化に向けて調査研究を推進しています。



虫明敬一

西海区水産研究所業務推進部長。

2011年に西海区水産研究所まぐろ増養殖研究センター長に就任。大型陸上飼育施設の設計計画、クロマグロ2歳魚の陸上施設への安全な収容技術の開発を担当。2014年に同施設でのクロマグロ3

歳魚での産卵を実現。現在は、研究所の運営等に係る業務全般に従事しています。